

## 【オーストラリア／シンガポール】豪大学研究者、シンガポールの新型コロナ追跡アプリ「TraceTogether」のプライバシー機能について懸念

現在、オーストラリア政府は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策として接触追跡モバイルアプリの活用を検討しており、現時点において同感染症の抑制に成功しているシンガポール政府が開発した「TraceTogether」の国内への導入についての検討を早急に進めている。

これに対して、メルボルン大学及びマッカリー大学の研究者らが、非常時においてもプライバシー保護に配慮するよう政府に対して提言を行っている。研究者らは COVID-19 のまん延を防ぐのは時間との戦いとなるため、「TraceTogether」のプライバシーに関する懸念事項について現実的な評価を実施し、同アプリのオープンソースコードの改変を最小限に止め、かつプライバシーを最大限に保護するための方法を検討している。

研究者らは、同アプリについて一時的な匿名 ID を付与し、頻繁に変更可能であるというが、同 ID は利用者の電話番号と永久 ID をベースとしてサーバーが決定しているもので、必要であれば中央当局が本人を特定することが可能になることを問題点として挙げている。

また、利用者のモバイル端末におけるデータログは暗号化されているため、外部からのハッカーは解読不可能であるが、サーバーは解読キーを保有しており、内容を把握することが可能で、中央当局に対する個人情報保護が不十分であるとしている。そこでオーストラリア国内へ適用する際には、ユーザーID はサーバーからでなくアプリによって本人以外にはわからないようローカルに提供するなどの変更を提案しており、プライバシーとデータ管理の両立の実現を提言している。